

# 小学2年1組 国語科学習指導案

指導者 中 村 紀 恵

「〇〇読み」を設定し、〇〇のわけを話し合ったり、「〇〇のものさし」を使ったりして音読の工夫を考えたことは、主人公の様子や気持ちを想像してお話を楽しむことに有効であったか。

1 単元名 音読で楽しもう！えっちゃんのせかい ～「名前を見てちょうだい」～

## 2 単元のねらい

書かれていることに注目しながら音読の工夫を考えることによって、場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読むことができる。

## 3 授業の構想

(1) 子どもたちは、1年生のときに、人物の行動や会話をもとに場面の様子を想像しながら読む学習を行い、登場する人物の順序に気を付けて読むことによって誰が何をしたか読み取ることができるようになった。また、2年生になって「ふきのとう」の学習で、物語の「場面」や「人物」を知り、音読をすることで場面の様子をとらえたり登場人物の気持ちを考えたりしてきている。次は、「ふきのとう」の第6時のふりかえりである。

- ・ふきのとうのプリントにはるかぜのこえやふきのとうのこえがいろいろかけたよ。ふきのとうががんばって雪のそとに出られたこえも書いてよかったよ。(児童A)
- ・6ばめんをとなりの人でやって、いい読みができてよかったです。6ばめんでもわりばんこに読んだり、いろんな読みかたができてよかったです。春かぜが自分、となりの人がそれいい、とか、いい読み方ができてよかったです。いろんなよみかたをつぎのこくごのときにしたいです。(児童B)
- ・「もう、すっかり春です。」のところをやっともんだいがかいけつしたように読むとじょうずにできました。まだじょうずにできないからもっとれんしゅうしたいです。「おうい、春かぜおきなさい。」のところは、人をおこすように読むとじょうずにできます。(児童C)
- ・ふきのとうを読んで「お日さまにおこされて」のところが上手に読めたからよかったです。1年生に音読ってたのしいなってかんで読みたいです。音読を1年生にたのしそうにやれたらいいです。(児童D)

これらのふりかえりから、子どもたちが、学習を通して書き込みができたことを喜び、さまざまな音読の形態を楽しんでいることや、場面の様子をとらえることが音読の出来映えとつながっていることに気付いていることがわかる。さらに、1年生に音読を聞かせるという単元を通した見通しをもったことで、目標をもって取り組むことができた。子どもたちは声に出して読むことが好きである。しかし、登場人物の気持ちを考える際に、叙述とかけ離れたところで想像して読んでしまうところも見られる。叙述をもとに想像を広げて読む力をつけていきたいと考える。

(2) 本学校園国語科として願う豊かな学びの姿の一つにお話に浸って楽しむ姿がある。本教材は、お母さんにもらった帽子を中心に展開する物語文である。風にさらわれた帽子を追いかけて主人公であるえっちゃんがいろいろな人物と出会い、最後に大男に立ち向かう場面へとつながっている。ファンタジーのお話であり、子どもたちは場面の展開の中で不思議な気持ちになったり、ちょっと怖い思いをしたり、わくわくしたりしながら赤い帽子を追いかけていくえっちゃんに共感して読み進めていくであろう。お話の中で繰り返し同じ言葉が使われており、低学年の子どもにとって声に出して読むことにより、お話の世界に入って主人公と同化しながら、起こる出来事を楽しむことができる教材であると考え。また、

本文中に散りばめられたさまざまな色彩表現の美しさやファンタジーのもつ不思議さを十分に感じることができると、ファンタジーの入門の作品としてとらえ、これからの読書生活につなげていくことができる教材であると考え。

- (3) 本単元の学習を展開するに当たっては、1年生に音読発表をするという単元全体の見通しをもって取り組むことができるようにしたい。子どもたちは、「ふきのとう」ですでに音読発表会を経験したので、本単元でも再度挑戦したいと考えるであろう。その際に学習した、「場面の様子や登場人物の行動を想像して読むことがよい音読につながる」ということをいかして、さらに工夫した音読を目指すことで物語の世界の想像を広げられるようにしたい。音読の工夫は、場面の中の会話文に絞って考える。それぞれの場面の会話文をどのように読みたいかを「〇〇読み」として書くワークシートを用意する。〇〇の中には、単に大きな声で、速くゆっくり、強く弱くという技能的な面にとどまらず、不思議、怒り、さびしそう読みなどこんなふうに読みたいと思う言葉が入れられるとよい。そして、どうしてそのように読むのか、根拠となる叙述に線を引き、理由を書き込んで話し合う。理由を書き込むことで叙述を基に場面の様子やえっちゃんの気持ちを想像していく力を身に付けていくようにしたい。ペアや全体で音読、話し合いを繰り返すことで、場面の様子や登場人物の気持ちを想像することを大切にしたいと考える。単元の最後には学習したことをいかして、工夫した音読を1年生の前で発表し、達成感を味わえるようにしたい。

本時は、えっちゃんが大男に立ち向かう場面である。まず、〇〇読みを考え、怒り、どなり、きりり、きっぱり、返して、大声など様々な読みを出し、わけを話し合う。その際に、〇〇の根拠となる叙述が言えるように問い返し、子どもの発言を掘り下げるはたらきかけをしていく。さらに、本時は〇〇の度合いが強くなっていることに気付けるようにしたい。本時の文は、えっちゃんが一言言うたびに体が大きくなっていく様子が形容詞や形容動詞を用いて目に浮かぶように表されている。その目に浮かんだ姿から、えっちゃんの姿が大きくなるにつれて、えっちゃんの気持ちも大きく、より強く、より厳しさを増していることに気付くことができるようにする。大きくなる様子を子どもたち同士で視覚的に共有するために「〇〇のものさし」として〇〇の大小や強弱を板書で整理する。「〇〇のものさし」を使い、ペアで音読をして話し合うことを繰り返すことによって音読の工夫を考えながら、えっちゃんの様子や気持ちをより想像できるようにしていきたい。

#### 4 展開計画 (全12時間 本時9/12)

次	主 な 学 習	時	具体的な学習・内容 (◇印は、学び合い)
1	教材文に出会い、好きな場面とそのわけを交流し合う。	1	・教材文を範読し、音読発表会を開くという学習の見通しをもち音読を工夫するという学習課題を共有する。
		2	・挿絵を手がかりに六つの場面に分ける。 ・挿絵を並べ替え、お話の大まかなあらすじをとらえる。
		3	・好きな場面について選んだわけを交流し合う
2	場面毎に音読の工夫の仕方を話し合う。	4～⑨	・〇〇読みを考えて音読の工夫を書き込む。 ・ペアで音読をし合う。 ◇工夫したところとわけを話し合って交流する。
3	音読発表会を開く	10～12	・音読発表会のリハーサルをする。 ・音読発表会を開く。 ・ふりかえりをする。

## 5 本時の学習

### (1) ねらい

「〇〇読み」の〇〇のわけを話し合ったり、大きさや強さを「〇〇のものさし」で表したりして音読の工夫を考える活動を通して、大男に立ち向かうえっちゃんの様子や気持ちを想像することができる。

### (2) 展開

学習場面と子どもの取組 (◎は、学びをいかしている子どもの姿)	教師の支援と願い・評価
大男に立ちむかうばめんの音読のくふうを考えよう	
<ol style="list-style-type: none"> <li>全体で音読し、一人一人が〇〇読みを考える。</li> <li>〇〇読みにしたわけをペアで伝え合い、音読を試し合う。</li> <li>全体で音読の工夫を発表し合う。 ◎「いかり読み」にした。えっちゃんが、湯気が出るくらい大男におこっているから。 ◎「きりり読み」にした。えっちゃんが、むねをはってきりりと……と書いてあってかっこいいから。</li> <li>5場面後半の中で一番強く読む言葉を見つけ、「〇〇のものさし」を作って、えっちゃんの気持ちを考える。 ・いかりの様子がどんどん大きくなっている。 ◎えっちゃんの体が大きくなるにつれて、〇〇大きさや強さや、気持ちも大きくなっている。</li> <li>読み取ったことをもとにペアで音読をする。 ◎「いかり読み」の感じが出て、こわい感じがわかるよ。 ◎「きりり読み」も、えっちゃんの気持ちに合ってるね。</li> <li>本時を振り返る。 ・「〇〇のものさし」を作ってみたら、えっちゃんのおこりぐあいやがどんどん大きくなっていることがわかった。 ・みんなで音読の工夫を考えたら、早く1年生に読みたくなった。 ◎△△さんが言っていた工夫をして読んでみたら、えっちゃんの気持ちが表せてよかった。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員で音読し、個人で音読の工夫を考え、〇〇読みとして表し、根拠となった文に線を引いたり、書き込みをしたりする。</li> <li>〇〇読みにしたわけをペアで伝え合い、交代しながら読むことで音読の工夫を試してみる。試してみる中で〇〇に当たる言葉を変えてもよいことを伝える。</li> <li>説明する際に本文を拡大したものを掲示し、書き込みをしたところが分かるようにする。</li> <li>友だちの工夫した方法でいっしょに読んでみた感想を交流し合うよう。</li> <li>それぞれがつけた〇〇の部分が場面の中でも強くなったり大きくなったりしていることに気付くように「〇〇5」のような「〇〇のものさし」を作って板書で視覚的に共有する。</li> <li>前時までのきつねや牛に対するえっちゃんの対応と比較し、えっちゃんが単に帽子を取り戻したいだけで怒っているのではなく、大切な名前まで食べてしまったという大男の卑怯な行為に対する強い思いをもっていることに気付くようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">評価の観点（読む能力）</p> <p style="text-align: center;">書き込みをして音読の仕方を考えることで、えっちゃんの様子や気持ちを想像している。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 発言・ワークシート】</p> <p><b>支援</b></p> <p>「〇〇のものさし」を手がかりに、えっちゃんの思いが強くなっていることに気付くことができるようにする。</p> </div>

### (3) 思考力・判断力・表現力の評価

評価基準	A	B	C
	音読の仕方を工夫することで、えっちゃんの強くなる思いを想像し、音読に表そうとしている。	音読の仕方を工夫しながら、えっちゃんの様子や気持ちを想像している。	えっちゃんの様子や気持ちと音読の仕方を結び付けずに工夫している。